

第13回日本教育保健学会年次大会開催要項およびプログラム

《開催要項》

開催期日：2016年3月5日（土）、6日（日）

開催地：茨城大学水戸キャンパス（茨城県水戸市文京 2-1-1） JR 水戸駅北口より7番乗り場からバス
25分

年次学会長：瀧澤利行（茨城大学教育学部教授）

実行委員：野津有司（筑波大学教授）、古池雄治、上地勝、石原研治、廣原紀恵、青柳直子（以上茨城大学教員）

協賛：茨城県小児保健協会、茨城県学校保健学会、茨城大学教育学部養護教諭養成課程同門会

後援：国立大学法人茨城大学、茨城県教育委員会（確定）、茨城県学校保健会、茨城新聞社（以上）

参加費：会員・非会員とも3000円 茨城県内教職員・茨城大学教育学部養護教諭養成課程同門会会員
2000円

学生参加費（現職をもつ大学院生を含む）：会員・非会員とも2000円

以上はいずれも抄録集代を含む

市民公開講座の参加者は無料（ただし抄録集はなし、別途1000円にて頒布）

懇親会費5000円（他に現職をもたない学生懇親会費は3000円）

郵便振替口座：00190-4-766187 名義：第13回日本教育保健学会

ゆうちょ銀行口座：店番〇一九店（019） 当座預金 0766187 名義：ダイジュウサンカイニ
ホンキョウイクホケンガツカイ

大会事務局：〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1 国立大学法人茨城大学教育学部教育保健教室公衆
衛生学研究室

e-mail：takizawa0903@gmail.com

《プログラム》

3月5日（土）

8:30 受付開始

9:00 開会行事

年次学会長挨拶

日本教育保健学会理事長挨拶

来賓挨拶

9:15 教育講演

「絵画からみえる社会と人間 ―子どもからおとなまで絵は人生を描き出す―」

【講師】小泉晋弥（茨城大学教育学部教授・副学部長、茨城大学五浦美術文化研究所副所長）

10:45 特別講演

「本当の学びとは何か 一夜間中学から現代の学校と学びを問う」

【講師】見城慶和（1999年吉川英治文化賞受賞者、元東京都夜間中学校教諭）

12:15 昼食・休憩

13:00 基調報告「本学会の実践・研究の今日的到達点『教師のための教育保健学』を上梓して」

報告者：藤田和也（一橋大学名誉教授・元國學院大學教授）

13:45 シンポジウム 「子どもの健康・発達とそれを取り巻く状況－教育保健の課題を探るために」

いま、子どもがかかえている健康・発達とそれを取りまく現状を、長年にわたって放課後の子どもたちとかわり、見つめ続けてきた、お二人の会員のそれぞれの立場から、家族や友だちとの人間関係に焦点をあてながら、教育保健が取り組むべき今日的課題を参加者と一緒に探っていくものにしたい。

【コーディネーター】

近藤眞庸（岐阜大学地域科学部）

【シンポジスト】

①竹内和雄（兵庫県立大学）「スマホ時代を生きる子どもたち ー大人が知っておきたことー」

②川又俊則（鈴鹿大学短期大学部）「放課後のこどもたちは、いまー放課後児童クラブの現場から

の報告」

15:50 課題研究

1) 「教師に求められる教養としての教育保健（各論2）」

本課題別セッションは、学校と家庭の接続として登下校・放課後・学童保育の子どもを見守る地域社会・社会システムとして、教師の教養として位置づけられる教育保健の内容議論を行いたい。学校における保健・安全管理を越えて、毎日の生活の中で子どもをまるごととらえる視点に立ちながら、家庭と学校の間でもある、登下校（通学）、放課後、地域社会に焦点化した議論を行う。

報告内容は、①学校の登下校（通学形態）と子どもの身体・安全の視点から、②学校・学童保育の接続と子どもの成長（学童保育におけるリスクと安全対策）の視点から、③子どもの健康リスクとレジリエンスの視点から報告をいただく。

【コーディネーター】

七木田 文彦（埼玉大学教育学部）、黒川修行（宮城教育大学）

【趣旨説明】

七木田 文彦（埼玉大学教育学部）

【報告者】

①青柳直子（茨城大学教育学部）：学校登下校（通学形態）と子どもの身体

②森本扶（埼玉大学非常勤講師）：学童保育・児童館は子どもの成長・発達にどう向き合ってきたかー教育と福祉のはざまでー

③上地勝（茨城大学教育学部）：子どもの健康リスクとレジリエンス

2) 「教育としての健康相談活動」

健康相談活動は、養護教諭の仕事として位置づけられ保健室で捉えた様々な問題に対して養護教諭がおこなっていることが多い。しかし、今日では学級崩壊の問題や、いじめなどによる問題が持ちこまれることも多く、教育の根幹にもかかわり、学校全体の教育の課題として取り組みを進めていく必要がある。

【コーディネーター】 宍戸洲美（帝京短期大学）

【報告者】中村好子（京都府京都市立金閣学校・養護教諭）「教育としての健康相談活動」

【報告者】山梨八重子（熊本大学教育学部）「チームで子どもの育ちを支える健康相談活動の実現に向けてー“抱え込み”の三層性に着目してー」

3)「今日の子どもの健康・命・生活の課題と健康・保健教育」

近年の子どもたちには、家庭での生活の崩れ（スマホ・アプリ・Line・SNS・メディア・携帯や親の生活格差等の背景）や人間関係の結びにくい状況下で、心身の慢性疲労やストレスの蓄積などが広がっている。そんな中、子どもたちは心身の自己管理能力が育っておらず、食や睡眠の乱れ、運動不足等による体調不良や冬場の風邪などが蔓延している。しかし、学校では多忙のなか、その対応はかつてのような生活点検や手洗いやうがい・マスクといったしつけ主義に陥り広がっている。改めて「からだと生活の主体に育てる」健康教育のあり方を議論し深める。

【コーディネーター】千葉保夫（宮城教育大学）、岡崎勝博（東海大学体育学部）

【報告者】

- ①岡崎勝博（東海大学体育学部）「「生活」を切り拓く保健授業の創造をー生活と科学を結ぶ視点ー」
- ②佐々木ひとみ（岩手県久慈市立久慈小学校・養護教諭）「生きる力をつける健康教育をめざしてー実践から見つけた共通点と今後ー」
- ③高山みつる（山形県元養護教諭）「からだの学習で育てる命とからだを守る力ー養護教諭が発信する健康教育の実践ー」

4)「養護教諭の養護概念 教育としての養護教諭実践の問い直し」

子どもの発育・発達保障を支える保健室実践をケアと教育という養護教諭の実践の中身についての視点から改めて保健室実践を見つめなおす。子どもを丸ごと捉える、子どもに寄り添い、子ども自身の力を引出し、子どもの育ちを支援していくという、養護教諭の実践を丁寧に見直しそこから教育保健の課題に迫る。

【コーディネーター】富山 芙美子（帝京短期大学）

【報告者】

- ①藤坂順子（宮城県石巻廣文館学校）「私の保健室実践1」
- ②布施谷留美子（長野県中野市立豊田中学校）「私の保健室実践2」

18:00 終了 移動（ホテルバスによる送賓）

18:30 懇親会（ホテルテラス・ザ・ガーデン水戸）

20:30 懇親会終了

3月6日（日）

8:30 受付開始

9:00 一般発表

12:00 昼食・休憩

13:00 総会および基本問題検討委員会報告（学会改革の方向性）

14:00 共同研究最終報告

15:00 終了